

# 医療法人名南会 第50回定時総会特集号

## 第50回 定時社員総会のご案内

法人定款第22条、第25条及び第27条の規定による「医療法人名南会 第50回定時社員総会」を下記のように開催いたしますのでご通知申し上げます。

### 総会日程及び会場

2015年5月 医療法人名南会  
理事長 三宅 隆史

●日時: 2015年  
**5月30日(土)**

開場・受付開始  
午後1時30分

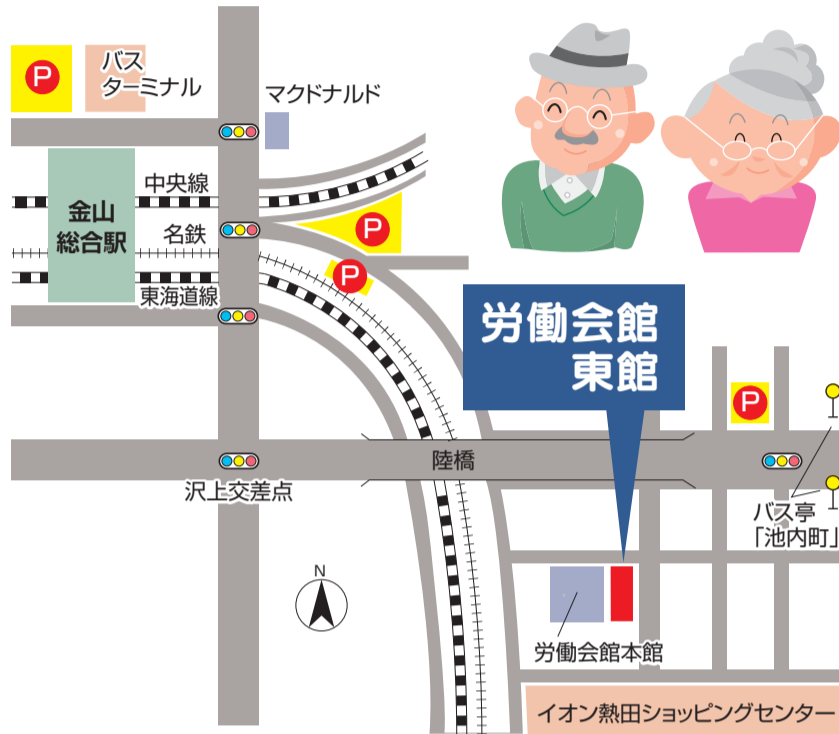
総会議事  
午後2時00分～4時15分  
(休憩)

総会参加者懇親会  
(同会場にて)  
午後4時30分～6時00分

※今総会は、総会終了後、同会場にて総会参加の皆様との懇親会を企画していますので、総会に引き続きご参加ください。

●会場: **金山・労働会館東館2階ホール**  
地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分

懇親会では、お食事・お飲み物をご用意させていただきます。お車でのお越しはご遠慮いただき、公共交通機関をご利用ください。



第483号(部内資料)  
(毎月1回、1日発行)

発行  
医療法人 名南会  
名古屋市南区豊田五丁目15番18号

発行責任者  
西本 義弘  
☎052-692-2388

年間購読料600円  
一部 50円

2014年度の  
特徴的な活動

## 2014年度諸活動と2015年度活動方針案

### 名南病院

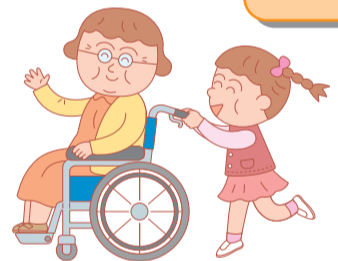


▲リニューアル工事できれいになった外来待合室

- 14年診療報酬改訂では「地域包括ケア病棟」が新設され(亜急性期病床は廃止)、6月から地域包括ケア病床の稼働(40床)を開始しました。病床構成は、3・4階一般各41床、2階一般13床・地域包括ケア病床40床となりました。誰もが安心して自分らしく住み続けられるまちづくり目指し、急性期後の療養、在宅の急性増悪の受け入れ、在宅復帰の支援を中心に地域包括ケアを支えていくことを名南病院の役割として位置付けてきました。
- 糖尿病グループや呼吸器チームNSTなどチーム医療が進みました。特に糖尿病は透析予防指導やフットケアが積極的に取組まれ、糖尿病療養指導士に新たに3名が合格しました。15年度は認知症チームと肝炎チームが活動を始めます。外来では6月より物忘れ外来を開始し、今年4月からは吉岡医師の発達相談を開始しました。手術は乳がん、大腿骨骨折手術、胆嚢摘出術、ヘルニア手術な

どを中心に実施しました。またがん化学療法が倍増しました。健診は特定健診・大腸がん検診・乳がん検診が年間目標を達成し、大腸2件、肺がん1件、乳がん15件が発見されました。在宅医療は訪問診療7件と看取り4件をおこない15年度も重視して取組みます。

- 3 医師の専門医資格については、伊藤春見医師が糖尿病専門医の、三宅理事長と高木医師が総合内科専門医の認定試験に合格しました。またプライマリケア連合学会認定医は認定医5名、指導医4名となりました。
- 4 3期病院リニューアルが5月に竣工し、壁紙改修やリハビリ室の拡大を行いました。また、講堂、「地域交流スペース」をあらたに設け活用がすすんでいます。10月に新しいX線TV装置とMRIを導入しました。



- 4年目を向かえた無料低額診療は、地域の貧困化がすすむ中、相談件数が増え14年度延べ135件が利用し、生活保護受給をはじめ生活再建に結びついています。
- 診療報酬改定による病床機能の再編がすすむ中で、地域連携がますます重要になっています。14年度は近隣特別養護老人ホームの協力医療機関になるなど連携強化をすすめてきました。その結果法人外の施設からの入院が13年比2.7倍と大きく増えました。また法人内では名南診療所在宅からの入院が大きく伸びました。15年度は地域連携をいっそう強め地域ニーズに応えていきます。
- 高齢化がすすみ医療依存度が高く重介護の方が自宅で生活する時代となり、医療・介護の複合的サービス提供が求められています。安心して自分らしく最後まで暮らし続けられるよう、高齢者の複合疾患に総合的に対応し在宅復帰を支援する質の高い医療とケアの提供を追求します。

● 2頁につづく ●

めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。



各院所の2014年度の活動のふりかえり・1頁からのつづき

# 名南介護老人 保健施設 かたらいの里

かたらいの里では2014年6月より「無料低額老健利用事業」を開始しました。民医連綱領にあ

る無差別・平等の医療・介護の実践として経済的理由により必要な介護が受けられないということがないようにこの事業を行っています。短期入所、通所リハビリ(デイケア)では在宅生活の継続を目指し、ご家族の介護負担の軽減や身体機能の維持向上に取り組んできました。



# 名南 ふれあい病院

◀リハビリ室内に新設された小児リハビリ室

下前後の咽喉頭の様子がよく分かりやすく検査することが出来るようになりました。

## ヘルパーステーションきずな

### 名南ふれあい病院

### 居宅介護支援事業所

ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所は他の事業所と連携をとりながら「安心して住み続けられるまちづくり」を目指し、引き続き在宅療養支援を行ってきました。

#### ヘルパーステーションきずな

- 1 職員2名の異動があり常勤5名の体制となりました。パート職員の採用もありました。
- 2 新規の依頼は断らない方針とし、障害福祉サービスの相談も積極的に受け入れました。
- 3 来年度に向け、パンフレット等を使用しての宣伝活動、365日営業、他の介護事業所との連携、ヘルパーの質向上に取り組み、件数増を目指したいと思います。

#### 名南ふれあい病院居宅介護支援事業所

- 1 在宅生活支援のなかで、法人内外との病院、診療所、施設、在宅サービス事業所、いきいき支援センター等との連携に努めました。
- 2 病院・施設からの退院・退所の際には、利用者様、ご家族、関係事業所間での情報共有ができるよう事前の家屋評価やカンファレンスをおこなっています。
- 3 定期的な会議、法人内での学習会をおこない、外部の研修会への参加もすすめています。

1 名南ふれあい病院に家田医師がリハビリテーション専門医として帰任しました。質の高いリハビリテーションの提供を目指し、多職種協働のチーム医療の実践に努力してきました。今後、医師を中心としたリハビリテーション医療の提供を構築し、さらに質の高いリハビリテーションを提供することで患者さんの全人的な回復を目指していきます。

2 回復期リハ棟では療養環境の整備として患者さんのくつろげる場所また自主訓練もできるスペースとして「多目的室」を設置しました。落ち着いた空間として入院患者さんに好評です。

3 医療相談室を元在宅総合センターの部屋に移動しました。これにより名南ふれあい病院より在宅へ退院される方の在宅サービスへの連携がとりやすくなりました。

4 嚥下内視鏡を導入しました。嚥

5 吉岡医師、家田医師、リハビリスタッフで準備を進めてきた「小児リハビリ」を11月より開始しました。現在は吉岡医師の発達相談がメインですが、徐々に患者さんも増えてきています。今後はリハビリスタッフ、臨床心理士との協働により一層充実させていきます。

6 昨年度は「ふれあい健康講座」を3回開催しました。積極的な宣伝活動や地域訪問行動を行うことでこの豊田地域に名南ふれあい病院の活動が浸透しつつあります。豊田地域で初めての「豊田班」が誕生しました。秋からは友の会による喫茶コーナーも開かれ、ほっと一息つけるラウンジとなり多くの人に喜ばれています。今後も職員と友の会と協働で仲間づくりをすすめ、「安心して住み続けられるまちづくり」に取り組み、地域に貢献していきたいと思

# 名南診療所・デイサービス庵・ 訪問看護ステーションきずな

名南診療所は2014年9月に訪問看護ステーションきずなの移設を受け、デイサービス庵と合わせ、3事業所50名を超える職員を抱える複合事業所となりました。手狭な診療所棟に訪看きずなが移設となったため、多目的室の専有面積が小さくなり、友の会の皆さんには大変不自由をおかけしました。この場をお借りして友の会の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

1 今回の訪看きずなの移設で、訪問診療(往診)、訪問看護、通所介護サービス、居宅介護支援と、在宅での医療・介護サービスがますます充実しました。これらの名南診療所の機能を生かすために6月には連携室が新設され、法人内外での医療介護連携を強めるべく活動を行っています。

2 デイサービス庵は、11月より祝日営業を開始し、利用件数、延べ利用日数、収益増につながりました。祝日に営業することにより利用者の選択肢が広がり、特にご家族には好評の声をいただいています。

3 恒例の名南診健康まつりは9月に行いました。今年度は、「はみんぐ歯科」や「わかば薬局」の協力も得て、友の会とともに準備をしました。記念講演は「チームワークと連携で在宅医療」と題し、大森所長が講演しました。また、今年初めての企画である「健康チェックラリー」も満員御礼の大盛況でした。

4 資金募集・健康推進運動は、年間を通して地道な取組みを続け、今年度も特定健診・地域資金ともに目標を達成することができました。これも地域の友の会役員さん・会員さん、そして地域のみなさまの多大なるご協力の賜物と職員一同心より感謝しております。

名南診療所はじめ3事業所は、この地域で無差別平等の地域包括ケアの実現を目指して2015年度も引き続き奮闘してまいります。

# 中川 診療所

施設リニューアルから3年を経過した中川診療所。施設の更新だけでなく介護・医療・健康づくりの地域の拠点として住み良いまちづくり、人に優しいまちづくりの運動のあらたな活動が始まっています。

1 地域の健康を守る健康活動で「特定健診」を強力に推進し、目標の750件を大きく超え849件実施しました。「大腸ガン検診」もしっかり取り組み早期の大腸ガン発見につながっています。「友の会健診」で心電図も無料オプションされるのが好評で健診当日に友の会に入会する人が増えています。

2 外来内科診療の待時間対策として、医師の診療単位を増やし改善に取り組んできました。また、要望の高い小児科の診療を毎週木曜日夕方5時~7時まで名南病院の吉岡モモ医師が行う事としました。山口所長は中川区医師会副会長として2年目に入り地域の診療所のあり方や病院・診療所の連携について医師会内で力を尽くしています。

3 診療所2階で行っている「デイケアひまわり」(通所リハビリテーション)は毎月新しい利用者を迎え活気あるデイケアを行っています。

4 中川健康友の会が友の会ルームで運営する「サロンなかしんさん」(木曜日午前)が好評です。気軽な集いの場として、また健康づくりの二つの健康体操サークルが元気に行われています。友の会班会は新たに二つの班ができました。中川健康友の会と協力して人に優しいまちづくりを推進していきます。

5 中川診療所居宅介護支援事業所では、「介護のことで困っている人が地域にはたくさんいる。もっと、地域に出よう!」と昨年の秋の強化月間では友の会の人たちと一緒に地域訪問や友の会班会の取り組みを行いました。ケアプラン管理件数も過去最高件数を更新しました。この地域でも認知症や独居の高齢者が増えており他事業所や医療機関との今まで以上の連携が求められます。地域の民生委員の方とも連携し厚い信頼を得ています。ケアプランのみならず地域のいろいろな「よろず相談」も含めて対応していこうと考えています。



▲参加者でいっぱいの名南診健康まつり(9月)



**「地域の健康づくり」の運動は事業所と共同組織が一体となってすすめる最も重要なとりくみです。**

# わたしたちは、「あらゆる活動を共同組織とともに」すすめます。

- ①**特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点検診とし、各事業所で年間目標や前年実績を上回ることをめざして、地域での健康づくりのとりくみを前進させました。**
- ②**まちかど健康チェックは定期継続的に行われ、内容も充実。**
- ③**「秋の健康チャレンジ」を新しく企画しました。**

大腸がん検診・乳がん検診・特定健診(友の会健診)を重点に、「名南会健康推進委員会」を中心に友の会各地域支部との共同のとりくみとして、外来待合室や地域訪問での検診お勤め行動や友の会班会での集団検診、地域で広げる郵送大腸がん検診などに取り組みました。その結果、特定検診、大腸がん検診はいずれも年間目標を上回りました。乳がん検診は7年連続で1,000件を上回りました。

「秋の健康チャレンジ」を新しく企画しウォーキングとラジオ体操の6つのコース(エントリー41名)で、健康づくり、新たな仲間づくりとなりました。名南ふれあい病院近くのショッピングセンター内での「まちかど健康チェック」も毎月1回定期的に継続され、名南会のHPH(目標を決めて結果の振り返り)の課題として、生活指導や受診のおすすめなど内容を充実させています。また、「健康体操サロン」は3ヶ所と今年度あらたに「秋の健康チャレンジ」か

ら誕生した「ラジオ体操班」などの取り組みが広がっています。

友の会活動担い手づくりとして、昨年に続き3会場での「保健学校」を開催しました。また、南区・瑞穂区・港区(木場)などで、健康懇談会を数多く開催しました。

中川診療所では、「健康づくり懇談会」(5会場のべ90名参加)、健康講座(年3回)など多彩な取り組みを年間を通して計画的に行いました。



秋の健康チャレンジ(ラジオ体操)



瑞穂健康懇談会(8月)



アピタ名古屋南店での毎月1回の健康チェックは好評



中川健康友の会秋の健康懇談会

**年間1億円の目標で資金募集にとりくみ、引き続き多くの社員・友の会員の方に協力をいただき、年間では、1億278万円の資金が寄せられました。**

“名南会協同基金は、差額ベッドのないよりよい病院、施設を支える大切な力”と職員、共同組織の共同で、今年度も各事業所で外来や病棟での訴え・地域訪問行動などにとりくみ、資金運動の年間目標を達成しました。また、資金協力者へのインフルエンザ予防接種割引制度により、特に名南病院小児科受診の若い方々を中心に新規協力者が広がりました。「積立通帳」などでの毎月の継続的協力者は、友の会員、職員の合計で1,500名を超えました。



名南診療所地域訪問で協同基金(積立通帳)の訴え



名南病院小児科待合室で友の会加入・協同基金の訴え

**友の会班会は、地域の楽しい交流、仲間づくり、友の会の活動拠点づくり。目標をもって新班の結成にとりくみました。**

各地域で班づくりに目標をもってとりくみました。今年度、名南地域で3班、中川地域で2班の新班がつけられました。そのうち、南区豊田地域(名南ふれあい病院地域)で初めて班結成に至ったことは画期的です。



豊田地域に初めて班が誕生しました

**友の会員の要求を出発点に、友の会らしい仲間づくり・健康づくりの活動が広がっています。名南会の事業所との共同もすすめました。**

「おしゃべりわいわいクッキング」「折り紙教室」「歴史探訪ウォーキング」「健康ウォーキング」「子育てサロン」「お食事サロン」「コーヒーサロン」「健康体操」「絵手紙」「ちぎり絵」「編み物」など、多彩なとりくみやボランティア活動は定例化・継続化がされ、居場所づくり・生きがいづくり・仲間づくりとして、引き続き新たな結びつきや地域での組織化が広がりを見せています。ボランティア活動では、今年度からあらたに名南ふれあい病院でも「ふれあい喫茶」がスタートしました。中川健康友の会が、会員さんや患者さんの憩いの場にと開設して2年になる「サロン・なかしんさん」は、交流だけでなく介護や医療、健康相談まで活動がひろがり、会員さんの中に定着してきています。友の会の活動のいずれもが、自らの健康や豊かな生活要求から出発し、やりがいや生きがいなど自己実現の場となっており、今後のさらなる発展が期待できます。



健康ウォーキング・海上の森(11月)



ふれあいお食事サロン



「サロン・なかしんさん」で楽しくおしゃべり

**平和、くらしを守るとりくみ ~みんなで学んでみんなで行動~**

私たちは何よりも「いのちと平和」を大切に、「貧困化」など困難が広がる地域に寄り添い、誰もが医療を受ける権利(生存権・受療権)を守ります。職員と友の会が「名南会社保・平和委員会」として共同でとりくみ、原水爆禁止世界大会、3・1ビキニデー、NPT再検討会議などに学習を行いながら代表を派遣してきました。名南健康友の会では、戦後70年を迎えるにあたり、平和への思いを共有し、戦争体験を語り継ぐ取り組みとして、「平和」をテーマにツアーを企画しました。また、「(名古屋)市)国保改善署名」「安心・安全の医療介護実現署名」などの学習会や待合室や街頭での署名活動にとりくみました。



4・24「輝けいのちヒューマンチェーン」(東京)参加者



11月8日 名南健康友の会「平和を考えるツアー」

**楽しい友の会全体企画、地域での行事などでは、職員、共同組織相互の親睦が深められました。1年間で507名の友の会員が増えました。民医連の共同組織との交流を深め学びました。**

名南健康友の会は、初めての企画「新春のつどい」を開催、地域の様々な団体・サークルとともに企画を作り上げ、当日は300名の方が参加し大成功でした。

「全国共同組織活動交流集会(神戸)」に名南・中川健康友の会6名、職員3名で参加し、自分たちの活動を報告し、全国の経験も学んできました。



名南健康友の会「新春のつどい」



全国共同組織活動交流集会参加者

**安心して暮らせるまちづくり、高齢者の見守り活動をすすめました 健康講座・地域懇談会などを町内会や・自治会とも連携をとりすすめてきました。**

高齢者、独居世帯の見守り活動として、夏に「熱中症訪問行動」を行いました。また、友の会の世話人さんから、「地域の気になる方」を事業所に紹介していただくことで、受診につながる例も増えています。安心して暮らせるまちづくりに向けて、「民医連がすすめ、求められる地域包括ケア」の実践として、地域住民が主体となる住民の健康づくり運動、ささえ合い助け合いのボランティア、たまり場づくり、自治体への要求運動などを友の会とともに今後すすめていきます。



# 医療法人名南会 2015年度方針(案)

安倍自公政権は、戦争する国づくりの法制化と明文改憲、人権としての社会保障を営利・市場化への解体、さらにはTPP、原発再稼働、辺野古への新米軍基地建設と暴走を続けています。

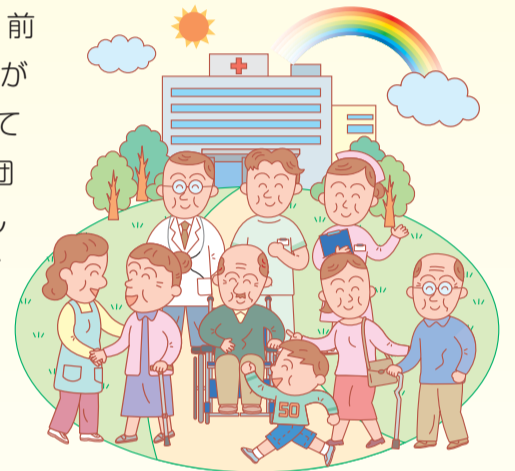
昨年11月の沖縄県知事選挙で、新基地建設反対の翁長県知事が「オール沖縄」の力で誕生しました。12月の総選挙では、自民党は改選前より議席を減らし、改憲をめざした次世代の党は19議席から2議席に激減しています。一方、安倍政権の暴走と正面から対決した日本共産党が8議席から21議席へと躍進しました。安倍内閣が、民意に背き戦争する国づくり、企業が世界で一番活動しやすい国づくりを強引にすすめていくなら、国民との矛盾は拡大し、平和と人権を守る共同は広がります。

2014年4月から消費税の引き上げが強行されました。政府は、「消費税増税分は、すべて社会保障の充実と安定化のために使われています」と宣伝してきました。しかし、8%に引き上げた増税分5兆円のうち社会保障の拡充に使われたのはわずか5千億円にすぎず、所得税収、法人税収でまかなってきた社会保障財源を消費税収に置き換えただけです。さらに、年金の削減など充実にあてた金額を大幅に上回る規模で負担を押しつけています。消費税の増税は社会保障の解体と一体にすすめられ、国民のいのちと暮らし、日本経済を危機に追い込んでいます。

2015年度政府予算案は、集团的自衛権の行使容認を踏まえて防衛予算を3年連続増の過去最高額とする一方、生活保護費削

減、介護報酬のマイナス改定など自然増すら認めない社会保障費の削減と「暮らし抑制、防衛重視」となっています。従来にはない規模の給付削減と負担増を盛り込んだ「改正」介護保険法が実施に移されます。4月の介護報酬改定は、2.27%の大幅なマイナス改定となりました。さらに、後期高齢者医療の保険料「特例軽減」の廃止、入院給食費の負担増、紹介状のない大病院外来の5千円から1万円の定額負担導入、国保の都道府県移管、患者申出療養制度の新設などを盛り込んだ医療制度改革も今国会に上程されました。

私たち医療法人名南会が事業を行う地域は、高齢化・貧困化・人口減少が急速に進行しています。高齢化には認知症と独居の増加が伴っています。それを真正面から受け止め、私たちの医療・介護活動の質・量の前進、いっそうの地域連携が求められています。加えて健康友の会や地域の諸団体と力あわせて、安心して住み続けられるまちづくりへの「たたかい」が欠かせないものとなっています。



## 2015年度の重点課題方針

### ① 戦後70年・被爆70年にあたり平和と憲法を学び語り合い、社会保障の営利・市場化に反対し、地域と職場からたたかう

全日本民医連の憲法DVDを活用した学習運動、戦争体験を語り継ぐ会など、1年を通して平和と憲法を学び語り合う運動を展開します。「核兵器全面禁止のアピール」署名運動を広げ、NPT再検討会議への代表派遣を行います。医療介護総合法の具体化に反対し、受療権を守り事例から改善を迫る職場からの社保運動、介護改善運動を行います。

### ③ 名南会を次代につなぐ医師・看護師をはじめ職員の育成をすすめ、働き続けられる育ちあいの職場・健康な職場づくりをはかる

新専門医制度に対応し、民医連と地域との連携のもと医師後期研修プログラムの整備をはかります。育てる奨学生活動、新入職員研修から認定看護師をはじめ専門資格取得まで職員の育成をすすめます。各職種の専門性が発揮されるチーム医療を病棟から在宅まで実践していきます。つちっこ保育所の移転を行い、病児・病後児保育事業を開始します。

### ⑤ 健康友の会とともに、地域でのヘルスプロモーション活動、ささえ合い活動をすすめ、誰もが安心して住み続けられるまちづくりをめざす

「友の会みまもりネットワーク」などみんなが安心して住み続けられるまちづくり、「まちかど健康チェック」などHPHを軸にした地域まるごと健康づくり、地域との協力・共同の取り組みによる憲法の理

### ② 名南会の総合力を高め、無差別・平等の地域包括ケアの探求と実践で、切れ目のない在宅医療と介護の提供を行う

名南会の各事業所が地域でなくてはならない役割を担うために、無差別・平等の「地域包括ケア」の中に自事業所を位置づけ連携を強め、質の高い医療・介護を追求していきます。とりわけ、人権としての「健康権」を保障する健康づくり、ガン医療も含めた慢性疾患医療、切れ目のない在宅医療・介護提供体制の構築を重視します。

### ④ 第6次長期計画から次代を展望し、医療・介護活動、職員育成に裏打ちされた2カ年経営計画のもと経営改善を行う

法人第6次長期計画も残り2年となりました。全国の医療経営が深刻な事態に直面していることを深く認識し、医療・介護活動、職員育成に裏打ちされた2カ年経営計画を策定します。病棟ごとの機能・役割の明確化を整理し、あらためて外来・在宅分野の総合的強化を重視していきます。本部機能の強化、コスト管理の徹底をはかっていきます。

念がくらしにいきるまちづくりを重点に、健康友の会との共同を前進させます。非営利・協同の「出資持ち分なし医療法人」に向けて検討を開始します。